

競技フットサルの現状と展望～フットサルの誕生からFリーグまで～

Current Status and Prospects of Futsal-Until F league from futsal birth-

1K06A150

指導教員 主査 堀野博幸先生

田口 直樹

副査 広瀬統一先生

．緒言

2007年9月23日、日本初となるフットサル全国リーグ、通称Fリーグが開幕した。2日間で行われた開幕戦には、13225人の観客が足を運び、日本のフットサルは新たな1歩を踏み出した。本論文では、フットサルというスポーツが競技として成立するようになった経緯を振り返るとともに、Fリーグを中心とした日本の競技フットサルに関する情報を整理し、日本フットサルの展望を探っていくことを目的とする。

．世界のフットサル

この章では、フットサルというスポーツがどのような経緯をもって誕生したのかを探る。国際室内サッカー連盟と国際サッカー連盟を中心に行われた競技としてのフットサルの成立を紹介していく。アジアのフットサルにも言及した。また、日本への伝播、日本国内での普及についても触れている。日本には当初、サロンフットボールとミニサッカーをどう定義していくかで問題になる時代があった。柴田らは「サロンフットボール普及会」としてその活動をスタートさせ、後に財団法人日本サッカー協会傘下の組織として「ミニサッカー連盟」を設立することになる。その後、ミニサッカーはフットサルへと名称統一され、「フットサル連盟」として活動している。

．地域リーグについて

では、Fリーグ設立以前は日本のトップリーグであった地域リーグを考えていく。Fリー

グ設立後、関東や関西のリーグで活躍していた中心選手は、更なる高みを求めてFリーグのクラブへと移籍していった。そのため、地域リーグに対する注目は年々低下していった。しかし2009年3月に行われた全日本選手権では、関東リーグのクラブが国内唯一のプロクラブである名古屋オーシャンズを破り日本一になっている。打倒Fクラブを掲げて戦う地域リーグのクラブには、フットサルにかける熱い思いを感じることができる。まとめとして、地域リーグのあり方や課題も検討していく。

．Fリーグについて

では、2007年9月に開幕したFリーグについて検証していく。長く全国リーグの必要性が問われていた日本において、Fリーグがどのような経緯で設立され、展開されてきたのかを探る。その中でも、注目を集めた名古屋オーシャンズが誕生した経緯についても触れた。また、その他の9クラブについても選手雇用、クラブ運営の面から言及し、紹介している。最後に、09シーズンから取り入れられたU-23枠についても考察している。

．まとめ

Fリーグが始まり「する」だけでなく「みる」スポーツとしてのあり方が問われるようになったフットサル。フットサル愛好者は全国に約280万人といわれているが、サッカーを含めたスポーツ愛好者を考えると更に成長する余地はある。そのためには、競技としてのフットサル

をより魅力的なものにしていかなければならない。その手段が、地域密着のクラブ運営であり、各選手の技術向上であり、今後プロ選手として活躍していくための意識であるとする。オリンピック競技としても検討されるようになったフットサルが、スポーツとしてさらに発展していくことを願ってやまない。